

部品運営委員会ベトナム(ハノイ)開催

支部部品運営委員会(委員長:ローム(株)・澤村 諭 社長)では、8月24日(木)にパナソニック・アプライアンス・ベトナム、25日(金)にJETROハノイ事務所を訪問すると共に、定例委員会を、現地責任者も交え、ベトナム田淵電機にて開催、さらにベトナム現地企業Hanel PT社の工場を見学しました。

パナソニック・アプライアンス・ベトナム(PAPVN)

24日(木) 15:30~17:00



PAPVN正面玄関にて(前列左端はPAPVN太田社長、右端はパナソニックベトナム・小林社長)



PAPVN太田社長による白物事業のご説明

ハノイ東南の工業団地タンロンⅡにある同社洗濯機工場を訪問し、社長の太田晃雄氏よりベトナムでの白物事業の説明を受けると共に、洗濯機生産ラインを見学しました。R&Dセンターが併設されており、アセアン各国の市場に向けて企画・開発・生産を行う主力工場です。仕向け地別を含めた多品種生産を効率良く行うため、「同期、直線、短縮」をキーワードに、オフラインでの組立

や空気を使った水漏れ検査によるプロセス短縮など、設計・生産工程の革新が継続的に取り組まれています。

JETROハノイ事務所

25日(金) 8:45~9:55

ハノイ中心部にある同事務所を訪問し、所長の北川浩伸氏より、ベトナムの経済・産業環境についてブリーフィングを受けました。本年3月の天皇陛下のベトナムご訪問、5月のベトナム首相の訪日や昨年の日越大学開学など、日本とベトナムの「日越関係」は史上かつてない最良の時期にあります。一方で、韓国企業の大型投資も進んでおり、また、生活水準の向上により市場としての期待が高まる反面、人件費の上昇問題もあります。

こうした課題はありますが、優秀な現地人材、親日感のさらなる高まりを背景に、アセアン全域に向けたビジネスの拠点として、有望で魅力的な国であることを再認識できました。



JETRO北川所長による現地概況のご説明

定例委員会・ベトナム田淵電機

25日(金) 10:20~13:20

ハノイ北東のバクニンにある同工場は、高周波トランスのグローバル開発・生産拠点で、開設から10周年を迎えています。まず、ベトナム田淵電機社長の足立崇彦氏より事業の説明を受け、引き続いて、昨年5月に竣工した新工場を含め、生産ラインの見学に移りました。多く

の工員が、巻線、テーピングの精密作業に整然と取り組む様子には目を見張られます。設計体制や自動化の強化による事業拡大が進められています。その後、部品運営委員会を開催し、現地責任者からのプレゼントも含め、活発な意見交換が行われました。



田淵電機(株)・貝方士利浩社長ご挨拶



澤村 諭 委員長よりお礼の言葉

現地電子部品生産会社 Hanel PT社

25日(金)13:40~16:30

ベトナムローカル企業の状況を学ぶ目的で、ベトナム Hanelグループの電子部品系生産会社Hanel PT社を訪問・見学しました。現地中堅企業として優れた品質を実現している会社で、取締役社長のチャン・トゥー・チャン氏は、日本の経営管理手法を学び実践されています。

従業員との触れ合いを大切にイベント開催、福利厚生の充実、技能レベルアップを目指す制度の導入などにより、従業員定着率の低さが課題のベトナムにおいて、

一ケタ低い退職率を実現しています。日系企業と連携し事業を拡大してきたベトナム現地企業の状況、また、技術や設備の水準を理解することができました。



Hanel PTチャン社長によるご説明



チャン社長を囲んで

まとめ

PAPVNもベトナム田淵電機も、手先が器用で勤勉なベトナム人の民族性を活かして高効率・高精度な生産を実現しており、またハノイ工科大学をはじめとする世界レベルの優秀な大学の卒業生を採用することにより、アセアン全域をリードする開発拠点として事業の強化に取り組まれています。

今回のハノイ訪問は正味1日半の現地視察、夜行フライトで帰国する強行軍でしたが、日系2社と現地企業の工場現場を見ることができ、またマクロのベトナム経済についての知見を得られ、大変有意義な視察となりました。